

2024 年度事業報告

自 2024年4月 1日

至 2025年3月 31日

公益財団法人 日 本 棋 院

東京都千代田区五番町 7 番地 2

目 次

概説

- I 圍碁普及事業（公益目的事業1）
 - 1 棋戦事業
 - 2 棋士育成事業
 - 3 圍碁普及と囲碁指導
 - 3-1 青少年等への囲碁普及
 - 3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導
 - 3-3 海外への囲碁普及
 - 4 圍碁対局環境の提供
 - 5 段級位認定
 - 6 圍碁大会の開催
 - 6-1 青少年対象の囲碁大会の開催
 - 6-2 围碁選手権・囲碁大会等の開催
 - 6-3 国際囲碁選手権及び海外囲碁大会等への協力
 - 7 表彰
 - 8 围碁関係情報提供
 - 9 围碁殿堂資料館
 - 10 各拠点での活動
 - 10-1 有楽町囲碁センター
 - 10-2 関西総本部
 - 10-3 中部総本部
 - 10-4 海外囲碁センター
- II 収益事業
 - 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）
 - 2 不動産賃貸事業（収益事業2）
 - 3 販売品、書籍事業（収益事業3）
- III 管理部門
 - 1 コンプライアンス
 - 2 受取寄付金の維持拡大と有効活用
 - 3 広報対応と棋士のメディアへの露出
- IV 「創立100周年事業」

付記

- 役員等に関する事項
- 事業報告の附属明細書

概説

日本棋院は、我が国の国技であり伝統文化である棋道の継承発展と普及振興を図るために、棋戦の開催や棋士の育成及び囲碁愛好者を対象とする囲碁指導、棋力認定、囲碁情報提供並びに囲碁大会の開催、小中高・大学への囲碁授業等を積極的に推進しました。

I 围碁普及事業（公益目的事業1）

1 棋戦事業

棋士は、棋戦を通じてその創造的思索の頂点を極めるべく、研鑽の成果を盤上で競い合い、棋戦によって囲碁の世界に数々のドラマと歴史を生んできました。挑戦手合や棋戦決勝は各地で開催され、地方での囲碁普及につながっております。棋戦の模様は新聞囲碁欄での観戦記の掲載をはじめ、テレビやインターネットで中継され、全国の囲碁愛好家の棋力向上と囲碁文化の振興に資することができました。

2024年度は、一力遼棋聖、芝野虎丸名人、井山裕太王座を中心に各棋戦が行われました。十段戦では井山王座が芝野十段を下してタイトルを奪取し、名人戦では一力棋聖が芝野名人を下してタイトルを奪取。七大タイトル戦の棋聖、名人、王座、天元、本因坊、碁聖、十段を、一力棋聖が四冠、井山王座が三冠で分け合うこととなりました。これらを含めた棋戦（挑戦手合、決勝）の結果は以下の通りです。

（段位は対局当時。棋戦名、期・回数、棋戦の形式、主催や
協賛社名、対局者と結果。棋戦形式無記はトーナメント戦）

- (1) 棋聖戦（第49期 挑戦手合七番勝負 読売新聞社）
一力 遼 棋聖 — 井山 裕太 王座
(一力遼棋聖が4勝3敗で棋聖位を防衛、4連覇)
- (2) 名人戦（第49期 挑戦手合七番勝負 朝日新聞社）
芝野 虎丸 名人 — 一力 遼 棋聖
(一力遼棋聖が4勝2敗で名人位を奪取)
- (3) 王座戦（第71期 挑戦手合五番勝負 日本経済新聞社）
井山 裕太 王座 — 芝野 虎丸 名人
(井山裕太王座が3勝1敗で王座位を防衛、4連覇)
- (4) 天元戦（第50期 挑戦手合五番勝負 新聞三社連合）
一力 遼 天元 — 芝野 虎丸 名人
(一力遼天元が3勝1敗で天元位を防衛、2連覇)
- (5) 本因坊戦（第79期 挑戦手合五番勝負 每日新聞社）
一力 遼 本因坊 — 余 正麒 八段
(一力遼本因坊が3勝0敗で本因坊位を防衛、2連覇)
- (6) 碁聖戦（第49期 挑戦手合五番勝負 新聞囲碁連盟）
井山 裕太 碁聖 — 芝野 虎丸 名人
(井山裕太碁聖が3勝0敗で碁聖位を防衛、4連覇)

- (7) 十段戦（第62期 挑戦手合五番勝負 産経新聞社）
芝野 虎丸 十段 — 井山 裕太 王座
(井山裕太王座が3勝2敗で十段位を奪取)
- (8) 阿含・桐山杯全日本早碁オープントーナメント戦（第31期 京都新聞社・阿含宗）
一力 遼 桐山杯 — 芝野 虎丸 名人
(一力遼桐山杯が勝ち優勝、2連覇)
- (9) 新人王戦（第49期 しんぶん赤旗）
藤井 浩貴 三段 — 三浦 太郎 三段
(三浦太郎三段が2勝0敗で新人王を獲得)
- (10) NHK杯テレビ囲碁トーナメント戦（第72回 NHK）
余 正麒 八段 — 井山 裕太 王座
(余正麒八段が勝ち優勝)
- (11) 竜星戦（第33期 囲碁将棋チャンネル）
福岡 航太朗 五段 — 井山 裕太 竜星
(福岡航太朗五段が勝ち優勝)
- (12) 女流本因坊戦（第43期 挑戦手合五番勝負 共同通信社）
藤沢 里菜 女流本因坊 — 牛 栄子 四段
(藤沢里菜女流本因坊が3勝2敗で女流本因坊位を防衛、5連覇)
- (13) 女流名人戦博多・カマチ杯（第35期 挑戦手合三番勝負 一般社団法人巨樹の会）
上野 愛咲美 女流名人 — 藤沢 里菜 女流本因坊
(藤沢里菜女流本因坊が2勝0敗で女流名人を奪取)
- (14) 会津中央病院杯・女流立葵杯（第11期 挑戦手合三番勝負 温知会）
上野 愛咲美 女流立葵杯 — 向井 千瑛 六段
(上野愛咲美女流立葵杯が2勝0敗で女流立葵杯を防衛、3連覇)
- (15) 女流棋聖戦（第28期 挑戦手合三番勝負 NTTドコモ）
上野 梨紗 女流棋聖 — 向井 千瑛 六段
(上野梨紗女流棋聖が2勝0敗で女流棋聖位を防衛、2連覇)
- (16) 扇興杯女流最強戦（第9回 センコーグループホールディングス）
藤沢 里菜 女流本因坊 — 上野 愛咲美 女流立葵杯
(藤沢里菜女流本因坊が勝ち優勝)
- (17) SENKO CUP ワールド碁女流最強戦（第7回 センコーグループホールディングス）
上野 梨紗 三段（日本） — 崔 精 九段（韓国）
(上野梨紗三段が勝ち優勝)
- (18) 日本女子囲碁リーグ（第1回 阪急電鉄、三井住友カード）
5チームによるリーグ戦。
- (19) 王冠戦（第65期 挑戦手合一番勝負 中日新聞社）
伊田 篤史 王冠 — 六浦 雄太 八段
(伊田篤史王冠が勝ち王冠位を防衛、9連覇)

- (20) 広島アルミ杯・若鯉戦 (第19回 広島アルミニウム工業)
広瀬 優一 若鯉杯 — 横塚 力 七段
(横塚力七段が勝ち優勝)
- (21) SGW杯中庸戦 (第7回 セントグランデW)
16名のリーグ戦。秋山次郎九段が優勝
- (22) テイケイグループ杯俊英戦 (第4回 テイケイ、テイケイグループ各社)
酒井佑規六段、三浦太郎四段が決勝進出。
- (23) テイケイグループ杯レジェンド戦 (第4回 テイケイ、テイケイグループ各社)
18名による本戦が進行中。
- (24) テイケイグループ杯女流レジェンド戦 (第4回 テイケイ、テイケイグループ各社)
小林泉美女流レジェンド、大澤奈留美五段が決勝進出
- (25) ディスカバリー杯 (第5回)
8名のリーグ戦。蕭鉢洋二段が優勝
- (26) 海外棋戦
海外棋戦では、春蘭杯、爛柯杯、呉清源杯、丙級リーグ(中国)、LG杯、農心杯、三星火災杯、国手山脈杯、応氏杯などに参戦しました。
- (27) 関西オープン囲碁トーナメント2024 (第5回・阪急電鉄株式会社)
トップクラス 余正麒八段 Aクラス 今村俊也九段 Bクラス 矢田直己九段
Cクラス 武井孝志八段 Dクラス 田中健太郎初段

2013年度から海外棋戦参戦にあたっては、日本の棋士の海外棋戦における成績向上を目指すため、「日本の代表として一丸となって戦う」という強い動機をもったナショナルチーム『GO・碁・ジャパン』を結成し、12年目を迎えました。

2024年度は監督、コーチ、選手の総勢33名のチーム編成により、上記の海外棋戦に臨みました。棋力強化合宿を夏季に行いました。その他、チーム参加棋士の棋力強化に向けて、毎週土曜日のナショナルチーム研究会のリーグ戦の成績に応じて選手の入れ替えをし、チーム活性化を図りました。

また、「囲碁ナショナルチーム応援募金」は、2024年度はファンの皆様から127件1630千円の募金がありました。

2 棋士育成事業

強い棋士を養成するため、院生育成及び若手棋士育成に注力し、研鑽のための環境を整えました。

(1) 院生強化育成(院生研修)

東京本院・関西総本部・中部総本部で棋士を目指す約60人の院生をクラス別に分け、毎週土・日曜日(8回/月)に研修を実施しました。

研修日には師範が礼儀作法から棋士としての心得などの指導を行いました。

院生研修は棋士採用に紐づいており、院生たちが棋士を目指す環境づくりにも院生の健康に留意しながら運営に努めました。

(2) 棋士採用（研修・試験）

（1）で記したように院生研修は棋士採用に紐づいています。

2024年に実施した2025度棋士採用については下記の通りとなります。

正棋士1名が採用される夏季採用枠は例年東京本院で4月・5月・6月に行われる院生研修の総合成績で決まります。

関西総本部・中部総本部においても各年毎に院生研修の成績で総合1位の院生を各総本部の所属棋士として採用する制度があり今回は関西総本部で実施され1名が採用されました。

8月から11月まで東京本院では冬季採用試験を実施。外来受験者・院生計27名が参加し上位2名が合格しました。また関西総本部・中部総本部においても各年毎に外来受験者を交えた同様の採用試験があり上位1名が各総本部の所属棋士として採用されます。本期は中部総本部で実施され10名が参加し1名が中部総本部所属棋士として採用されました。

また女流特別採用棋士を採用する試験も12月から実施しており、外来・院生計13名が参加し、1名が採用となりました。

(3) 棋士採用（推薦）

（2）の試験とは別に棋士になる方法として推薦制度があります。

囲碁普及活動の増進と女流碁界の拡充のため導入された女流特別採用推薦制度は、院生及び院生経験者が対象となり、下記の1から3の条件のいずれかに該当すれば院生師範によって推薦されます

1. 東京本院において同一年内に院生研修Aクラスに5か月以上在籍した者
2. 冬季採用試験本戦において5割以上の成績を挙げた者
3. 上記の1及び2に準ずる成績を認め、かつ将来を嘱望され、所属の院生師範全員の推薦があった者

本年は上記の基準に照らし、関西総本部から1名推薦され、採用されました。

英才特別採用推薦棋士制度は女流特別採用推薦制度と同じく2019年度に導入された制度です。棋道の継承発展、内外への普及振興を目的とするもので、囲碁世界戦の優勝を目指すなど、最高レベルの棋士となるべく、候補者の実績と将来性を評価し、日本棋院の現役7大タイトル保持者および、ナショナルチーム監督とコーチ3分の2以上の賛成により、採用されます。対象は原則として小学生なため、条件は厳しく、採用がありませんでした。

外国籍特別採用制度は囲碁の海外普及を目的として推薦制度で、日本・中国・韓国・台湾・北朝鮮以外の国籍を持つ院生及び院生経験者が対象で、冬季棋士採用試験において5割以上の成績を取めるなどの条件を満たすと院生師範によって推薦され、採用されます。今回は該当者がおらず、採用者がいませんでした。

上記の採用制度で2024年度に入段したものは下記のとおりです。

- ・ 東京本院 夏季採用（1名） 荒井 幹太
- ・ 本院 冬季採用（2名） 嶋峨 駿太郎、宮谷 風雅

- ・ 関 西 本 戦 採 用 (1名) 朝日 悠俊
- ・ 中 部 本 戦 採 用 (1名) 中根 大喜
- ・ 女 流 特 別 採 用 (1名) 小幡 みのり
- ・ 女流特別採用 推薦 (1名) 関山 穂香

(4) 若手棋士育成

囲碁ナショナルチーム「G O ・ 碁・ジャパン」に 18 歳以下（女流棋士は 20 歳以下）の若手棋士 26 名が登録・参加。

コロナ禍の状況を見ながら、棋力強化合宿を 3 年ぶりに復活させました。また対面による研究会を毎週土曜日に実施し、ナショナルチームの活動を広く囲碁ファンにご理解頂くため、対局の模様をネット対局「幽玄の間」で公開いたしました。

3 囲碁普及と囲碁指導

囲碁の素晴らしさを幅広い世代に伝え、また、多くの囲碁愛好者の棋力向上のため、棋士による指導のほか、普及指導員による囲碁指導を全国で展開しました。

3-1 青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全な育成に寄与し学校教育に役立つことを広く認識してもらうために、地方自治体・教育委員会・学校と協力体制をとり、地域に密着した普及事業を展開しました。

(1) 囲碁入門・初級教室の実施

① 入門囲碁体験教室を開催

全国の小・中学校、自治体等の要請により棋士を派遣し指導を行いました。

また、現地での継続的な開催ができるよう支援しました。

② ジュニア教室の開催

東京本院、中部総本部の各施設にて定期的に棋力に応じたジュニア教室を開催しました。

(2) 学校教育への囲碁導入

小・中・高校及び地域に密着した囲碁事業を推進するため、行政と一体となった普及活動を展開しています。2024 年度は小・中・高校の正課授業として 63 校、12,215 人、正課授業以外として 118 校で 16,025 人が参加いたしました。

2024 年度小学校囲碁授業実施校は下記のとおりです。

北海道：岩見沢市立第一小学校他 4 校、**秋田県**：能代市立第四小学校他 5 校、**栃木県**：宇都宮市立宮の原小学校、**埼玉県**：さいたま市立浦和大里小学校他 5 校、**千葉県**：昭和学院小学校他 1 校、**東京都**：中央区立明石小学校他 68 校、**神奈川県**：横浜市立本郷小学校他 3 校、**石川県**：能美市立和気小学校、**静岡県**：島田市立金谷小学校他 2 校、**愛知県**：長久手市立長久手小学校他 10 校、**三重県**：熊野市立飛鳥小学校他 5 校、**大阪府**：関西大学初等科他 1 校、**奈良県**：生駒市立壹分小学校他 2 校、**島根県**：大田市立仁摩小学校、**岡山県**：岡山市立岡北中学校、**福岡県**：糸島市立波多江小学校他 1 校、**佐賀県**：佐賀市立南川副小学校他 9 校、**熊本県**：玉名郡和水町立菊水小学校他 2 校

（主な行政囲碁事業の取り組み）

【東京都中央区】 2012年から区内の4つの小学校で、総合的な学習の時間を利用した囲碁授業を開始、2024年度は8校の小学校で、日本棋院の棋士による指導を実施しています。授業のコマ割に合わせて、指導教材、カリキュラムを用意し、学校で囲碁授業を導入する際のモデルケースとなっています。

【東京都品川区】 放課後子どもプラン『すまいるスクール』で囲碁教室を開催。区内小学校37校全校で囲碁を採用しました。品川区は「放課後子どもプラン」（文部科学省・厚生労働省）において、東京都各区で囲碁を導入する際の推進モデル地区となります。

（3）学校囲碁指導員講習会の開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充し、指導者を養成するため、学校囲碁指導員講習会を実施しています。2024年度は東京都品川区、秋田県大仙市、北海道函館市において対面形式で実施しました。今後は通年で受講できるオンライン動画の公開を準備しています。

（4）大学での囲碁授業の導入

① 東京大学教養学部と連携して囲碁授業を継続

2005年より、東京大学教養学部と連携して1、2年の囲碁初心者を対象にした全学体験ゼミナール「囲碁で養う考える力」を創設し、大学囲碁授業のモデルケースとなっています。この講座は対局を交えて囲碁を実戦で学ぶを通じて、判断力・分析力・集中力など総合的な考える力を身につけることを目的とした取り組みを継続的に行ってています。

② 全国35大学で囲碁授業を実施

2023年度と同様に、東京大学、東邦大学、早稲田大学、日本保健医療大学、青山学院大学、琉球大学、東京科学大学、筑波大学、近畿大学、京都大学、名古屋大学、福山大学、一橋大学、神奈川大学、大阪大学、東京学芸大学、九州大学、東京理科大学、長岡技術科学大学、愛知学院大学、名古屋市立大学、神奈川工科大学、高崎経済大学、千葉経済大学、立教大学、千葉大学、弘前大学、島根大学、高崎健康福祉大学、尾道市立大学、桃山学院大学、九州産業大学、中村学園大学と鳥取大学で囲碁授業を開講。

一部の大学では初回ガイダンスのみオンライン授業が継続されますが、全ての大学で対面授業を実施しています。日本棋院は囲碁授業実施大学に29名の棋士を講師として派遣しました。

2025年度も新規囲碁授業の開講に向けて働きかけを継続的に行います。

（5）がっこう囲碁普及基金の活用

拡大する学校囲碁授業への対応とさらなる推進のため、広く特定寄付金を募ろうと2015年に「がっこう囲碁普及基金」を創設し、小中高・大学等での囲碁授業の支援のために活用しております。2024年度は186件、1,856千円のご支援をいただきました。

（6）法人賛助会員の維持

法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動として、日本棋院が行う普及活動にご支援

いただく目的で、平成 17 年に創設しました。子供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等の囲碁普及に有効に活用しています。2024 年度は、9 社よりご支援を頂きました。

3－2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導

世代を超える生涯楽しめるものとして、また、地域社会におけるコミュニケーションの場づくりとして囲碁が取り入れられるよう積極的に活動しました。

(1) 囲碁学校

日本棋院の各施設において、入門者から高段者まで様々な棋力の方を対象とした囲碁学校を常時開設。棋士による講座・解説を実施しました。

(2) 指導碁

日本棋院の各施設において、指導碁を担当する棋士をほぼ毎日常駐させ、希望すれば入門者から高段者まで直接指導が受けられる体制をつくり、囲碁愛好者の棋力向上に努めました。

(3) ネット指導碁

インターネットの特性を生かし、全国の囲碁ファンが気軽に棋士の指導を受けられるよう、日本棋院が運営するインターネット対局サイト「幽玄の間」上で 1,360 局の指導碁を実施しました。

(4) 棋士派遣

法人・個人を問わず全国各地からの要請により、棋士派遣を実施。主な派遣活動として、大会審判、指導碁、講演・講座、入門教室等を行いました。2024 年度は、前年度より派遣件数および派遣棋士数も増加し 101 件、238 名の派遣を行いました（2023 年度：78 件、228 名）。2025 年度はさらに件数も増加し以前の状態に近づくと想定しています。

(5) 初級者教室（旧囲碁未来教室）の開催

級位者のための「囲碁未来教室」は月刊誌「囲碁未来」が 2022 年 2 月をもって休刊となりましたが、「初級者教室」として当面継続して教室を運営します。2024 年度は全国で 62 の教室で開催されました。

(6) 囲碁愛好者との連携強化

より多くの囲碁愛好者との連携を深めるため、全国の支部や囲碁愛好家、行政組織と連携し、全国各地で囲碁イベントを開催しました。2024 年度は前年度に比べてイベント開催数が増えました。

また、支部代表者懇談会を全国 8 カ所で開催し、各地域の普及状況を共有しました。

○ 第 45 回普及功労賞

- ・ 鈴木 広和（浜北支部・支部長、浜名湖囲碁まつり実行委員長）
- ・ 稲塚 公郎（松江支部・副支部長、島根県囲碁連盟副会長）

○ 第 43 回普及活動賞

- ・ 全国で 35 名を表彰

○ 2024 年度優秀支部表彰

- ・支部ポイント数十傑 一位 三重支部（三重県）1,048P
- ・会員増十傑 一位 松が丘支部（埼玉県）17名

(7) 留学生向け囲碁講義

青山学院大学の留学生を対象に、10月29日に青山学院大学（青山キャンパス）において囲碁授業を実施しました。これは留学生に日本の伝統文化に実際にふれて学んでもらうという目的で実施されており、2005年より毎年実施しています。これまで青葉かおり五段が講師を務めてきましたが、今回は三谷哲也八段により囲碁授業を行いました。

(8) 英語による大学生向け囲碁講義

また、11月29日には、「Cool Japan」という授業の中で、アンティ・トルマネン初段による英語の囲碁講義が青山学院大学（相模原キャンパス）にて開催されました。こちらは、グローバルな人材育成を目標に、自国の伝統文化を学んでもらうという目的のもと、日本人の学生を対象に実施されています。授業は、対面で実施され、約90人の受講生が参加しました。

3－3 海外への囲碁普及

国際交流、文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介し、他国の囲碁団体とともに、囲碁人口の拡大と現地囲碁愛好者の棋力向上に努めました。

(1) 国際囲碁連盟（IGF）会長国

日本棋院は、国際囲碁連盟（IGF）の会長国として、世界各国への囲碁普及と組織化に努め、また、世界の囲碁界をけん引する日本棋院、中国囲棋協会、韓国棋院の三ヵ国の代表が出席する日中韓の三ヵ国首脳会議を開きました。将来にわたり世界に囲碁を大きく発展させ、広く振興するべく、IGF、IMSA（国際マインドスポーツ協会）、AIMS（独立スポーツ組織協会）等と協力・連携を行いました。

(2) 第44回世界アマチュア囲碁選手権東京大会

5月19日から22日にかけて第44回世界アマチュア囲碁選手権が東京（会場：日本棋院）で開催されました。初出場のドミニカ共和国とキルギスを含めた世界60か国・地域から60名の代表選手が参加、全8回戦（スイス方式）によりアマチュア世界一を決定しました。優勝は最終成績7勝1敗で中国代表の白宝祥選手。日本代表の大関稔さんは日本選手では2007年の森洋喜さん（3位）以来、17年ぶりの3位入賞を果たしました。

(3) 海外拠点での取り組み

海外の拠点であるブラジル南米本部（サンパウロ）において、継続的に囲碁普及活動を行っています。

(4) 棋士の海外派遣

○米国オレゴン州（会場：ポートランド州立大学）で7月13日から約1週間開催され

た第40回アメリカ碁コングレス（参加者約500名）に張瑞傑六段を派遣して、囲碁講義、指導碁、対局の検討等を提供し、また北米プロ棋士との交流対局も行いました。

○フランス南西部のトゥールーズ（会場：国立民間航空学院）において7月26日より2週間にわたり開催された第66回ヨーロッパ碁コングレス（参加者約1200名）に内田修平八段を派遣し、囲碁講義、指導碁、大会の検討、またフランス人をはじめとしたヨーロッパ各国からの参加者と囲碁を通じた交流を行いました。

○英国ロンドン（会場：ロンドン碁センター）で12月28から4日間開催された第50回ロンドンオープン碁トーナメント（参加者約100名）に大橋拓文七段を派遣し、囲碁講義、大会の検討を行い、また英国人参加者と囲碁を通じた交流を積極的に行いました。

（5）オンラインコンテンツ配信

海外版日本棋院囲碁チャンネル（YouTube）を開設し、前年度より海外のファン向けに英語による囲碁コンテンツの動画配信を本格スタートし、2022年度にはチャンネル登録者数が1,000人を超えるました。日本棋院創立100周年動画（英語版）を7月に公開しました。

4 囲碁対局環境の提供

インターネット通信対局「幽玄の間」や日本棋院の各施設における一般対局場の運営に加え、オンライン講座の新規開設等を通じて誰にでも囲碁が楽しめる環境を提供し、囲碁愛好者の棋力増進に努めました。

（1）オンライン講座の成長

2020年10月に開始したオンライン講座は、2023年にスタッフを一新、内容の拡充を図りました。YouTubeでのPR動画の公開も開始し、今後の日本棋院主力商品に育つよう、引き継ぎ力を入れてまいります。

オンライン講座はインターネットを活用した4回程度の短期集中講座で、従来型の対面講座では実現が難しかった夜間の開講や、トレンドに即応したテーマの設定等を通じて、新規顧客開拓を目指しています。またオンラインでの講座が得意なプロ棋士の個性開花も期待されています。

（2）一般対局場の運営維持

いつでもどなたでも気軽に立ち寄り対局できる一般対局場は、アマチュア囲碁界の最も基本的なインフラとして、年末年始を除き毎日営業いたしました。

東京本院の対局場来場者数は12,110名、有楽町囲碁センターは30,170人、関西総本部の梅田囲碁サロン11,311人、中部総本部8,517人、合算して62,108人が利用しました。

（3）インターネット対局サイト「幽玄の間」

日本のみならず、韓国・中国などの東アジアさらにヨーロッパ、北米などの世界の囲碁ファンとのコミュニケーションの場として利用され、あらゆる世代の囲碁愛好者

がパソコン上やスマートフォン、タブレットで手軽に対局を楽しめる環境を提供し、およそ 5500 万局の対局が行われました。

(4) 貸室の提供

囲碁愛好者の大会やセミナー開催に合わせ、ホールや和室等の貸室を提供したほか、対局時計や解説用大碁盤等の貸し出しを行い、職域大会や地域囲碁大会等に利用されました。

(5) 囲碁アプリの提供

囲碁入門者向けのスマートフォン(iPhone/Android)用アプリとして 2022 年 12 月にリリースされた「囲碁であそぼ！」は、教育現場で導入し易いように、完全無料、広告無しの仕様としました。日本全国の旅をしながら、囲碁の基本ルール、石を取る問題、対局を中心としたステージを進めていく新感覚学習ゲームとして、子どものみならず、大人にも人気を博し、これまで 14 万ダウンロードを数えました。現在、第 2 弾を開発中です。

5 段級位認定

段級位の認定は囲碁上達の基準となり棋力の到達度の証明にもなっています。また、囲碁は棋力の差がある者同士の対局でもハンディキャップを付与することにより、勝敗を競うことが可能であり、全国の囲碁愛好者を対象に段級位認定を実施しました。

(1) 段級位認定大会

都道府県民まつりは、19 の道府県で開催され、1,427 人が認定大会に参加しました。その他、各施設、支部等でも認定大会を実施しました。

(2) 紙上認定

日本棋院発行の碁ワールド、特別紙上認定、一般紙に掲載される認定問題やホームページ上の認定問題を掲載し、段級位認定を行いました。

(3) 情報会員

情報会員向けにホームページ上に認定問題を掲載し、段級位認定を行いました。

(4) 幽玄の間

『幽玄の間』で一定の条件を満たして免状申請された方に、レーティングによる免状発行を行いました。

6 囲碁大会の開催

多くの全国大会がコロナ前の姿に戻っての開催となり活況を呈しました。大会参加者のレベルも年を追って飛躍的に向上しています。全国大会に先立つ都道府県予選の参加人数も回復傾向にあります。

各都道府県において日本棋院県本部あるいは県支部連合会や日本棋院支部の協力により、囲碁大会の主催・後援等を行いました。後援したイベントは 80、参加者予定数は延べ 19,708 人となっています。

6－1 青少年対象の囲碁大会の開催

少年少女囲碁大会、高校選手権、こども棋聖戦の全国大会を開催、保護者や囲碁ファンが観戦に訪れました。

地方自治体を含む各種スポンサーからも引き続いでのご支援を賜りました。

第48回文部科学大臣杯 全国高等学校囲碁選手権（競輪補助事業）

日程	2024年7月22日(月)～24日(水)、
会場	日本棋院東京本院(東京都千代田区)
内容 結果	○男子団体戦：優勝 仙台第二高等学校(宮城) ○女子団体戦：優勝 白百合学園高等学校(東京) ○男子個人戦：優勝 羽根和哉(愛知・愛知工業大名電高等学校) ○女子個人戦：優勝 鈴木時(秋田・御所野学院高等学校)
実施者	主催：日本棋院、全国高等学校囲碁連盟、高等学校文化連盟全国囲碁専門部 後援：文部科学省 協賛：株式会社ブルボン、ウシヤマ電機株式会社、株式会社囲碁将棋チャンネル

第45回文部科学大臣杯 少年少女囲碁大会（競輪補助事業）

日程	2024年8月6日(火)～7日(水)
会場	日本棋院東京本院(東京都千代田区)
内容 結果	○小学生の部：優勝 小川蓮(東京・暁星小学校) ○中学生の部：優勝 福田佳朋(神奈川・川崎市立白鳥中学校) ○本大会の様子はNHK Eテレで放送
実施者	主催：日本棋院 後援：文部科学省、NHK 特別協賛：大成建設株式会社 協賛：公益財団法人JKA

第14回 くらしき吉備真備杯こども棋聖戦全国大会

日程	2024年12月21日(土)～22日(日)
会場	マービーふれあいセンター(岡山県倉敷市真備町)
内容 結果	○低学年の部：優勝 鄭智皓(大阪・白頭学院建国小学校) ○高学年の部：優勝 岩切知輝(宮崎・都城市立祝吉小学校)
実施者	○低学年の部：優勝 鄭智皓(大阪・白頭学院建国小学校) ○高学年の部：優勝 岩切知輝(宮崎・都城市立祝吉小学校)

6－2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

女流都市対抗戦が再開し、全国の女性愛好家から喝采の声で迎えられました。

(1) 宝酒造商品ご提供大会

宝酒造株式会社から宝酒造商品 3000 名超分を全国の地元大会での賞品としてご提供頂きました。多くの方に宝酒造商品をお持ち帰り頂きながら、囲碁大会を楽しんで頂ける仕組みとなっています。

(2) アマ三大棋戦

第18回アマ名人戦

内容	アマ名人位4連覇を果たしていた大関稔アマ名人が、昨年と同じ挑戦者夏冰さんに三番勝負で敗れました。夏冰さんは初めてのアマ名人位就位となりました。 ※アマ名人戦：各県代表による全国大会により挑戦者を決め、挑戦者がアマ名人に三番勝負でアマ名人に挑む挑戦手合制。
----	--

第70回アマ本因坊戦

内容	大関稔選手が全国大会で優勝、アマ本因坊位を獲得しました。 通算5期を達成したため、以後の全国大会は名誉アマ本因坊としてシードとなります。 ※アマ本因坊戦：各県代表による全国大会によりアマ本因坊を決定するトーナメント制。
----	---

アマ竜星戦(世界アマ決定戦)

内容	スponsorer判断で開催を見合わせました。
----	-------------------------

(3) 女流アマ選手権

第67回女流アマ選手権

内容	東京・千葉代表の藤原彰子さんが3度目の優勝を果たしました。
----	-------------------------------

(4) 女流アマチュア都市対抗戦

女流アマチュア都市対抗戦

内容	コロナ以降中止となっていた本大会ですが再開しました。 福島県郡山市を舞台に200名超の選手が全国から集まり、1泊2日で囲碁と交流を楽しみました。
----	---

(5) 阪急電鉄納涼囲碁まつり

日本棋院創立100周年「第11回阪急電鉄納涼囲碁まつり」

日程会場	8月14日(水) ホテル阪急インターナショナル(大阪府大阪市)
内 容	公開席上対局、大盤解説会、棋士との交流タイム、女流指導碁会、プロ棋士団体トーナメント戦、クラス別チャンピオン戦(アマイベント)を開催し約700名が参加しました。

(6) 都道府県民まつりの開催

地域間での親睦・交流を深めることを目的とした支部単位の団体戦や、認定大会の開催を県本部・支部連合会を通じて促進し多数の参加を得ました。

① 世界アマ日本代表決定戦 県予選

2019年度から世界アマ日本代表決定戦はアマ竜星戦と合併していますが、今年もアマ竜星戦が中止となったため、世界アマ日本代表決定戦県予選も中止となりました。

② 日本棋院支部対抗戦 都道府県大会

各県の大会・行事の中で、地域間での親睦・交流を深めることを目的に支部単位の団体戦を開催し、2024年度は9県、456人が参加しました。

(7) 全国規模イベントへの参加

10月20日、21日には鳥取県智頭町で「ねんりんピックはばたけ鳥取2024」が行われました。また11月16日、17日には岐阜県飛騨市で「囲碁の祭典 GO飛騨高山」として国民文化祭が行われ参加しました。

(8) インターネット大会

2024年7月より、プロ棋士とアマチュアがリーグ戦を戦う、「全日本囲碁オープン順位戦」を開始しました。成績によって昇降給があり、プロとアマが対等に戦うリーグ戦です。プレ大会を含め3回開催しました。

(9) その他イベント

- ・ジャンボ大会、オールアマ団体戦等の団体戦

囲碁ファンの交流の場として団体戦の人気が高まっています。全国各地から東京本院に選手が集まりにぎわいました。

6－3 國際囲碁選手権及び海外囲碁大会等への協力

第19回韓国首相杯国際アマチュア囲碁選手権戦

9月22日から9月25日まで、韓国テベク市において開催され、韓国首相杯に日本代表選手として川口飛翔さんを開催地の韓国に派遣し4位入賞しました。

7 表彰

棋道の研鑽、囲碁普及と発展に顕著な貢献を頂いた方々及び日本囲碁界の将来を担う棋士を対象にその栄誉をたたえ、毎年表彰しております。

(1) 大倉喜七郎賞

日本棋院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ、1964年に創設。棋士、アマチュア、国内外問わず、囲碁普及に特に功労のあった方を表彰します。

第54回大倉喜七郎賞

大橋 英三郎 株式会社ビッグ・ビー 名誉会長

福井 正明 日本棋院棋士・九段

秋山 賢司 囲碁観戦記者

兵頭 俊夫 東京大学名誉教授、理学博士

(2) 秀哉賞

二十一世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため1963年に創設。囲碁界において顕著な成績を認め、将来が嘱望される棋士に贈呈されます。

第62回秀哉賞（段位タイトルは受賞時）

一力 遼 棋聖・名人・天元・本因坊・桐山杯・NHK杯・応氏杯

(3) 棋道賞

棋道賞は、日本棋院が発行する「月刊碁ワールド」の前身「棋道」（1967年）によって創設され日本棋院所属棋士を対象に各棋戦において、顕著な成績を収めた棋士に各賞を授与します。選考委員は、タイトル戦を主催、協賛する新聞各社・テレビ局の囲碁関係者と出版担当常務理事により選出されます。

第58回棋道賞（段位タイトルは受賞時）

最優秀棋士賞 一力 遼 棋聖・名人・本因坊・天元

優秀棋士賞 井山裕太 王座・碁聖・十段

新人賞 福岡航太朗 竜星

女流賞	藤沢里菜 女流本因坊・女流名人・扇興杯
国際賞	一力遼 応氏杯、上野愛咲美 吳清源杯
最多勝利賞	藤沢里菜 女流本因坊 53 勝 (27 敗)
勝率第1位賞	三浦太郎 新人王 0.8039 (41 勝 10 敗)
連勝賞	六浦雄太 八段 (13 連勝 2024 年 1 月 8 日から 2024 年 5 月 2 日)
	鶴田和志 七段 (13 連勝 2024 年 5 月 6 日から 2024 年 9 月 9 日)
最多対局賞	藤沢里菜 女流本因坊 80 局

(4) 囲碁殿堂表彰

日本棋院創立 80 周年記念事業として囲碁殿堂資料館の発足とともに創設。囲碁史上に多大な業績をあげ、囲碁の隆盛に貢献した人を顕彰（殿堂入り）します。

2024 度 第 21 回殿堂入り 菊池 康郎 (1929 年 - 2021 年)
林 海峰 (1942 年 - 日本棋院棋士・名誉天元)
大竹 英雄 (1942 年 - 日本棋院棋士・名誉碁聖)

8 囲碁関係情報提供

囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承していくことは、日本棋院にとって大切な使命と認識し、出版物、あるいはインターネット上に囲碁文化・技術等に関する情報を社会に発信しました。

(1) 雑誌、新聞の発行

- ① 「月刊碁ワールド」定価 1,265 円 毎月 20 日発売 B5 判 152 頁建
中級者から有段者向け月刊誌として、講座、読み物、海外ニュースなどバラエティ一に富んだ囲碁情報を掲載しました。一力遼棋聖連覇、本因坊連覇、名人奪取、井山裕太王座 4 連覇、十段奪取等の七大タイトル、藤沢里菜女流本因坊、女流名人防衛、上野梨紗女流棋聖奪取等の他、19 年振りに主要世界戦で優勝した一力遼九段の応氏杯優勝、上野愛咲美六段の吳清源杯優勝等世界戦優勝の話題を取り上げております。また、「週刊碁」が令和 4 年 8 月に休刊したのに伴い、人気講座を引き継いで掲載しています。
- ② 「囲碁年鑑」定価 3,850 円 年 1 回発行 B5 判 396 頁建
月刊碁ワールドの臨時増刊号として 5 月に発行。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑等を掲載しております。

(2) 電子媒体による情報提供

- ① 日本棋院ホームページ

日本棋院ホームページでは、棋戦情報、大会・イベント情報、棋士に関する情報、出版情報など、囲碁に関する様々な情報記事を提供しています。

年間 1,000 件以上の最新囲碁ニュース（棋戦結果速報）やイベント情報記事を更新し、全世界で延 100 万ユーザーから年間 1,470 万（前年比-115 万）アクセスがありました。

② 「幽玄の間」

「幽玄の間」では、対局の他に国内外のトップ棋士の対局を2,000局以上の中継を行い、棋戦情報等を積極的に提供しました。また、ホームページ上でも中継棋譜の再生が出来る仕組みを提供しています。そのほか、AIの評価値表示機能の提供や同好会機能による囲碁ファン同士の交流も行なっています。

2024年度には勝敗予想機能を導入し、プロとアマが参加する全日本囲碁オープン順位戦をスタートしました。

③ 情報会員

情報会員には最新棋譜から過去の名局まで、60年以上に亘る、6万6千局以上の棋譜データを提供しており、ためになる棋譜解説、動画講座、早わかりタイムトライアル等の講座、入門初級者向けのページなど様々なファン層に対応した情報提供を行いました。

④ 電子書籍

2021年2月1日よりAmazon社のKindleにて電子書籍の販売を開始いたしました。週刊碁、月刊碁ワールド、囲碁未来、書籍等を340冊販売しています。

⑤ YouTube「日本棋院囲碁チャンネル」

2018年2月に映像配信サイト「YouTube」上に「日本棋院囲碁チャンネル」を開設し、棋戦やイベントをライブ配信、切り抜き動画などの動画配信を行いました。令和6年度は番組配信数201回（前年比-55回）、チャンネル登録者数53,058人（前年比+6,105人）、視聴回数6,348,044回（前年比304,600回）、総再生時間1,607,207時間（前年比-79,650時間）でした。チャンネル登録者数は増加しております。

⑥ 棋道web

休刊となった週刊碁に替わって2023年9月よりインターネット上で「note」をプラットフォームとした情報発信を行うことになりました。囲碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、棋士の動向、海外情報、アマ大会や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座等幅広い内容をよりスピーディにお届けし、キャンペーン等を実施しましたが購読者数が伸びず2025年3月末をもって更新を終了いたしました。

9 囲碁殿堂資料館

囲碁殿堂入りの方々を顕彰するとともに、囲碁の歴史、囲碁文化についても広く一般に紹介しています。また、関連図書、由緒ある囲碁用品の展示、歴史に残る名棋譜を整理し、展示しています。

10 各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を生かしながら東京本院と一体になって、活動を行いました。

10-1 有楽町囲碁センター

年々囲碁ファンの高齢化は歯止めが掛からず来客者数も変わらずに減少傾向があり、今期

もまた昨期と比較して1割程度の減となりました。しかしながら有楽町駅徒歩1分の利便のちにあり、現在も月間2,500名を超える利用者があるなかで、個々のニーズに応えるべく、新たな企画やフレッシュな講師陣の登用に加え前期末の値上げも功を奏し、売上は1割弱增收となりました。経費削減には限界があるなかで収支を均衡させるべく、来客者の回復と新規利用者の開拓に向けて、様々な施策を実施しています。

10－2 関西総本部

大阪市北区に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県（大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山）と広島、岡山両県を統括し囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組みました。普及拠点である「梅田囲碁サロン」および「茶屋町囲碁サロン（会員制）」を運営し、各種囲碁イベント、貸室そして教室等を開催しました。

（1）主要大会の開催および後援（主なイベントの参加人数は以下の通り）

- | | |
|--------------------------------|----------|
| ・第11回納涼囲碁まつり大阪 | 約700名 |
| ・夏休み子ども囲碁フェスティバル2024 | 約300名 |
| ・寝屋川囲碁将棋まつり | 約400名 |
| ・定例段級位認定大会（年6回開催） | 計454名 |
| ・各種親睦大会、アマ棋戦地方予選、級位者大会など〔年37回〕 | ——計1919名 |

（2）会館事業の充実（梅田囲碁サロン、茶屋町囲碁サロン）

「梅田囲碁サロン」

年末年始、お盆休みを除きサロン営業を行い普及に努めました。

来場者数は7月まで前年とほぼ同じ横ばいの状況となっていましたが、今夏の記録的な猛暑により高齢者が外出を控えるなど大きく影響を受け、一般利用者の減少、団体貸席グループの休会が多く見受けられ来場者数は伸び悩みました。入場者数は年末年始から3月にかけ回復傾向になりましたが新規増と自然減が拮抗する状況が続いております。サロン運営として一般対局、棋士指導碁、級位者の日などを開催し、囲碁教室への貸室、各種団体に貸席誘致活動を行い、また販売コーナーでは人気のある囲碁用品、書籍等を中心に品揃えし商品の充実に努め、快適な環境改善に取り組みました。

年間を通じ多くの方にご利用して頂き入場者数は昨年より微増の11,311人、52万円の增收となりました。

「茶屋町囲碁サロン」

《落ち着いた空間でゆっくりと囲碁を楽しんで頂く》をコンセプトに会員制囲碁サロンとして大阪市北区茶屋町で営業しました。サロン会員の継続維持と休会中の会員の再登録への働きかけ、DM等による新規会員の勧誘に努めましたが、会員の高齢化と健康上の理由による退会等により会員数の維持が難しく、法人会員は前年度より1社減の4社となりました。会員数が回復する見込みが難しく今後の運営が厳しいことから残念ながら2025年3月をもって休館することになりました。

(3) 大学での囲碁講座開設への取組み

2024年度は関西圏において大学4校（京都大、大阪大、近畿大、桃山学院大）にて囲碁講座が継続して取り入れられ授業の運営サポート等に協力しました。若者層への普及拡大として各大学の講座への新規開設と継続への働き掛けを引き続き積極的に行います。

(4) 小中学校および当本部管轄の遠隔地域への囲碁普及活動

市町村の行政及び教育委員会の理解を得ながら関西の小学校や幼稚園等の総合学習の時間やクラブ活動に囲碁授業導入に向けた働きかけ、そして継続して行われている授業にサポート等を行いました。今後も子ども達への普及をより一層拡大してまいります。

また、地域普及活動として大阪府寝屋川市、東大阪市の地域主催のイベントへの運営サポートや京都本部をはじめとした各支部連合会主催イベントへの後援や運営補助等を行い地域の囲碁普及に努めました。

10－3 中部総本部

名古屋市に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山・静岡県天竜川以西）を統括し、囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組みました。

(1) 各種大会の主催および後援等（主なイベントは以下の通り）

- | | |
|---------------------|----------|
| ・愛知県江蘇省青少年囲碁交流 | 延期 |
| ・打ち初め式 | 53名 |
| ・日経杯新春囲碁大会 | 85名 |
| ・ジャンボ団体戦 | 308名 |
| ・中部総本部段級位認定大会【5回開催】 | （参加456名） |

※9月は台風接近のため中止

(2) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

- ・中日新聞社主催「第65期王冠戦」（中部総本部プロ棋戦）

(3) 指導碁・囲碁学校・イベント

指導碁は、平日1名、土・日曜日は1～2名の棋士を配し、午前の部を新設するなどお客様のニーズに合わせた時間割となっております。

子供から大人まで、入門者から有段者までの一貫したステップアップを踏めるよう、全9講座を開講し、囲碁ファンの底辺拡大に努めました。

「入門初級講座」「よく分かる囲碁講座」「こども教室」「アフタヌーン講座」「を目指せシングル級講座」「を目指せ初段講座」「特別高段講座」「総合講座」「モーニング講座」

また、毎週日曜日にいつでも入門者を受け入れられるよう体制を整えており、普及活動に努めています。

(4) 部屋の貸付

2024年度は、4月に1社退去いたしましたので5社に対して部屋の貸付を行いました。収益部門の大きなウェイトを占めるテナントの入退居は、大きなインパクトがあるため引き続き、代理店などを通じてご入居に向けて取り組んで参ります。

(5) 法人会員

法人賛助会員 3 社、特別法人会員 7 社、中部法人会員 21 社、合計 31 社より全社ご継続頂き、さらに 2 月より新規で 1 社ご入会頂くことが出来ました。

今後も中部財界の企業を中心に、ご支援頂ける企業を増やすことが出来るように努めて参ります。

10-4 海外囲碁センター

- (1) 2014 年 5 月ニューヨーク碁センターを売却して得られた資金によりアメリカ囲碁協会 (AGA) と提携して米国 NPO 法人『岩本北米基金=INAF』を創設し、ワシントン DC の囲碁センターの活動促進や、日米文化交流・指導プログラムなど北米での囲碁普及活動の多面的な支援を行っています。
- (2) 北米の囲碁普及を促進するシアトル碁センターは、2022 年本会館の売却完了後、新たな囲碁基金 (岩本囲碁アウトリーチ基金=IGOF) を設立しました。また、2023 年 9 月に新しい基盤での北米囲碁普及活動を活発に展開するため、地元シアトルのコミュニティセンターへ活動拠点を移し、現在、囲碁普及活動を再開しています。
- (3) ブラジル・サンパウロにあるブラジル日本棋院（南米本部）は、現地組織により、サンパウロを中心とした南米での囲碁普及活動を引き続き行っています。

II 収益事業

1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業 1）

(1) 免状発行

段級位認定大会、紙上認定等で認定された段級位に基づき、免状を発行します。免状は、棋力の証明となるもので、9 級から八段までの 1,277 通の免状発行を実施し、免状には審査役である棋士の署名がなされました。

(2) 普及指導員認定事業

囲碁愛好者の拡大と入門・初級者への指導者資格認定として、9 級以上の免状保持者に囲碁普及指導員申請の権利を付与し、指導者の充実を目指しています。2024 年度は新しく 11 名の方が普及指導員になられました。また 162 名の方が資格を更新しています。六段以上の高段位免状保有者には、公認審判員申請の権利を付与しています。2024 年度は 4 名の新しい公認審判員が誕生しました。

2 不動産賃貸事業（収益事業 2）

東京本院では地下 1F 部分を、中部総本部では 1F、4F～6F 部分を他法人に賃貸しました。

3 販売品、書籍事業（収益事業 3）

(1) 販売事業

日本棋院の各拠点に売店を設け、碁盤、碁石、碁笥などの対局用具、各種囲碁用品、囲

碁書籍の販売を行いました。また、どこでも購入できるよう、通信販売センターの設置や、インターネットを利用したオンラインショップでの物品販売も実施しました。

(2) 書籍製作販売

入門から高段者まで棋力向上の講座物、問題集、棋譜解説、定石、手筋、死活、詰碁、事典、囲碁の歴史書等、囲碁に関する書籍を、日本棋院の各拠点及び全国の書店にて販売しております。また、本年度につきましては囲碁界のレジェンドが半生を語った「趙治勲 囲碁と生きる」、棋聖獲得までの軌跡を辿った「二刀流の棋士 一力遼」の2点の新刊を発行しております。

III 管理部門

1 コンプライアンス

公益法人として、コンプライアンス行動規範に則り、定款に基づく執行体制、諸規程に沿った活動に努め、透明性の向上やガバナンスの確立に注力すべく、内部統制整備委員会を開催しました。2024年度は、内部統制取組方針に基づき、規定類整備、入出金の適正化、システム改善、備品等監査、職員相談窓口の設置等の改善取り組みを実施しました。

2 受取寄付金の維持拡大と有効活用

受取寄付金に関して、公益財団法人移行による税制上の優遇制度の理解促進に努め、受取寄付金の維持・拡大を図りました。囲碁ナショナルチームの「G O・碁・ジャパン応援募金」、小・中・高・大学等での囲碁授業向けの「がっこう囲碁普及基金」、法人賛助会員等の維持拡大を図り、囲碁の普及のために有効活用を図りました。

また、2024年に創立100周年を迎えるにあたり、「創立100周年記念募金」も活用しています。

なお、個人と法人向けの「G O・碁・ジャパン応援募金」「がっこう囲碁普及基金」は、それまでの所得控除に加え、2016年3月から税額控除の対象として証明を受けています。

3 広報対応と棋士のメディアへの露出

対局の度に最高齢対局記録を更新している杉内寿子八段には、マスコミも注目しており、故杉内雅夫九の持つ最高齢勝利記録の更新に期待がかかっています。

また、9月8日の一力九段の応氏杯優勝では、急遽、帰国時の羽田空港での囲み取材、続けて棋院2階での記者会見をセッティングし、テレビ局をはじめ多くのマスコミが詰めかけました。

更に市ヶ谷駅での優勝横断幕設置、棋院玄関でのパネル装飾等でPR効果を高めました。12月1日には第7回呉清源杯世界女子囲碁選手権決勝三番勝負にて、上野愛咲美五段（当時）が、2勝1敗で日本選手としてはじめての、メジャー国際棋戦優勝を果たしました。

帰国時の空港での囲み取材、記者会見をセッティングし、一力九段に続く世界戦優勝のニュースに囲碁界は湧きました。1月27日には上野六段の都知事表敬訪問も実現し、優勝報告がなされました。

11月21日にはノーベル科学賞受賞のハサビス博士来院が実現し、井山九段との記念対局、一力九段との対談が実現し、その後の交流会では新たなスポンサー企業との繋がりを作る契機となりました。

NHKの大河ドラマ『光る君へ』は対局シーンも多く、撮影現場での監修、指導等に棋士を派遣しました。

1月27日から監修に全面協力している『伍と碁』の連載が週刊ヤングマガジンにて始まり、集英社のXの投稿記事は、10万いいね！を集めるなど話題を呼んでいます。

IV 「創立100周年事業」

7月17日に創立100周年記念式典がホテルオークラで開催され、新聞各社、スポンサー各社、一般客を含め450名を招いた祝賀会は、日本女子リーグのお披露目も兼ね、多くのマスコミが集まり、高い広報効果を得られました。

歴史を振り返る報道写真展を共同通信社の協力の元、1年間に亘り全国7会場で順次開催し、写真パネルの展示を行いました。

100周年金銀箔免状は237件の申請があり、31百万円の収入となりました。

記念事業の目玉として、2024年7月に日本棋院創立100周年記念事業である日本女子囲碁リーグが開幕。1年間をかけて行われるリーグ戦は、これまでにない形の棋戦として、新規の囲碁ファン獲得の裾野を広げるとともに、中国・韓国の棋士とも互角に戦える若い女性棋士の強化を主眼としています。

役員等に関する事項

2025年3月31日現在

役名	氏名	就任年月日	担任職務	備考
総裁	今井 敬	H16.7.13	総裁	日本製鉄株式会社 名誉会長
顧問	石田 芳夫	R2.6.23	顧問	日本棋院棋士 九段 24世本因坊秀芳
顧問	高濱 正伸	R6.6.25	顧問	花まる学習会 代表
理事長	武宮 陽光	R6.7.9	理事長	日本棋院棋士 六段
常務理事	大淵 盛人	H26.6.24	棋戦企画部、海外室	日本棋院棋士 九段
"	石田 篤司	R 4.6.21	関西総本部	日本棋院棋士 九段
"	青木喜久代	R 2.6.23	コンテンツ事業部、100周年記念事業担当	日本棋院棋士 八段
"	奥村 靖	R 6.7.9	中部総本部	日本棋院棋士 七段
"	宮崎龍太郎	H30.6.26	事業部、広報室	日本棋院棋士 七段
"	関 達也	R 6.7.9	総務人事部、財務部、普及部、経営企画室	日本棋院棋士 四段
理事	石村 和彦	R 2.6.23		国立研究開発法人産業技術総合研究所理事長
"	稻田 修一	R 6.7.9		技術経営士 情報未来創研代表 早稲田大学ウェルビーイング&プロダクティビティ研究所顧問
"	遠藤龍之介	R 2.6.23		元フジテレビジョン 取締役副会長
"	佐川八重子	H30.6.26		株式会社桜ゴルフ 代表取締役
"	角 和夫	H25.6.25		阪急阪神ホールディングス株式会社 代表取締役会長 グループCEO
"	外池 徹	H30.6.26		アライドメディカル代表取締役、アフラック元相談役
"	中村 功	R 7.3.25		大成建設株式会社 常務執行役員
"	松浦晃一郎	H23.6.21		元ユネスコ事務局長、日本ペア碁協会理事長、世界ペア碁協会会长
"	柳本 卓治	R 2.6.23		囲碁文化振興議員連盟 会長
"	吉原由香里	R 6.7.9		日本棋院棋士 六段
監事	大内 隆美	H30.6.26		一般社団法人構想日本 プロジェクトリーダー（公益法人担当）
"	藏本 隆	H30.6.26		公認会計士、税理士
"	橋本雄二郎	R7.3.25		日本棋院棋士 九段

事業報告の附属明細書

2024年事業年度においては、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書に記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しておりません。

2025年6月
公益財団法人 日本棋院